



こうべ森の学校だより

No.66
2015年9・10月号

発行人：こうべ森の学校 編集委員会

発行所：神戸市北区山田町下谷上中一里山 4-1

神戸市森林整備事務所内

Tel: 078-371-5937 Fax: 078-371-1087

森の文化祭に向けて炭焼きを実施

10月3日と17日に、炭焼きを実施しました。再度山で間伐した樹木の有効活用を図るため、こうべ森の学校では炭焼き窯を設置して会員有志が1昼夜つきっきりで、炭焼きを実施しています。



窯詰め開始

炭焼きは、まず材料を選木して、同じ長さにそろえなければなりません。一般にウバメガシやクヌギを使いますが、森の学校ではヒサカキやソヨゴなどの間伐材を材料にしています。



焚口閉鎖作業

ります。

点火した後も、温度、火の勢い、煙の色を見ながら、火加減を見ていきます。火力が強すぎると材料は燃えて灰になってしまい、弱すぎると生焼けになってし

まいます。

もうひとつ忘れてならないのが、木酢液です。小屋後方の煙突から吹き出す煙が空気に触れて冷やされる際に木酢液が副産物として回収されます。天然由来の害虫駆除成分が含まれています。

点火後半日程度で、完全密閉して空気を遮断し、蒸し焼き状態にして、自然冷却します。

1週間後に窯を開けて炭を取り出します。今回、前半は61.6kg、後半は58.0kgの炭を製品化することができました。再度炭として「こうべ森の文化祭」で販売されます。



窯開け時



顔中まっ黒で炭出し



良い感じに仕上がりました



平成27年8月16日例会時の写真



シリーズ ボランティア活動 ⑧

私のボランティア実践から

東郷 賢治

こうべ森の学校で

私がこうべ森の学校でのボランティアを始めてから12年余。神戸市のホームページに目が留まってひとりで応募したところ、建築科卒の武田則明氏が来ていた。

2年後輩で学生の頃から山岳部で同じ釜の飯を食った間柄、「何かのご縁。一緒にやりましょうよ。」と何年か振りの握手を交わした。私は森の手入れや保全に関する知識も経験もないズブの素人だった。ただ子どもの頃からよく遊んだ再度山周辺のマツが松くい虫にやられ、その無残な姿に何とかならないかと言う漠然とした課題を持っていた。2003年のことだった。



11月の発足式でこうべ森の学校と命名され、月一回の森づくり活動が軌道に乗った。とはいえ、計画も運営も指導もすべて森林整備事務所によるものだった。会を重ねるごとにボランティアの間でも意識が芽生え、組織の概要も少しは理解できるようになった。

04年、市有林のスギ・ヒノキの間伐材の活用例としてログハウスを建てる計画が示されたが、設計者の武田氏以外ボランティアは勿論誰ひとりとしてログ建築を経験した者はいなかった。手探りの状態からのスタートである。それだけに知恵を出し合い、工夫し合い、一つ一つ試しながら、失敗を重ねながら、今、倉庫として使っているログを完成させた。そこから学んだことは共通の



基盤となって本番挑戦への大きな原動力となった。週3日の活動日も会員の意欲の盛り上がりの中から生まれた。それぞれが自分の力量に応じた仕事を見つけ、学びながら少しずつ少しずつログハウスは組み建てられていった。整備事務所の機動力が威力を発揮する日が続いた。屋根・防水・床張り・建具・塗装・給排水・電気・暖炉等々一部専門業者と一緒に多様な作業に携わり、貴重な体験がてきた。いま振り返って、いい時期にめぐりあえたものと思わずにはおれない。07年春、森学産みの親であり、ログの発案者である高橋敬三所長と

森学担当の瓶子宏さんのお二人が退職されることが分かった。誰言うことなくお二人の退職を祝う会を完成まじかなログハウスで催すことが当然のように計画が進められた。私たちボランティアのみならず六甲山の友人も多数参加してもらって、盛り上がった雰囲気の中で感謝の祝杯を挙げた。



この年、森学はボランティア団体としての組織化を図り、市民と行政と企業による協同活動へ向けての歩みが始まった。規約の制定・安全マニュアルの実施・研修や研鑽さらに森林ボランティア団体への加入等、体制づくりと共に活動内容の充実を図った。

09年、神戸で開催されたG8環境大臣会議関連のイベントに積極的に参加、多くのスタッフが中心になって市民への啓発活動に力を注いだ。森では生物多様化を念頭に常緑樹の除間伐・落葉広葉樹の育成・アカマツについての研修と保護等に取り組んだ。

12年、神戸市は六甲山整備戦略を発表し、六甲山の恵みを「育てる」「生かす」「楽しむ」ための仕組みを提示した。そのなかで森学との関わりでは再度山は森林植物園や六甲山牧場とともに憩いと学びの森に位置づけられている。勿論、災害防止や生物多様化・環境などに立脚しながらのことでなければならないが、従前からの私どもの活動の基本の考え方が間違っていなかったことがはっきりした。さらに人材育成では市民への働きかけの中でボランティアの輪を広げ、緑の育成に参加する人々をこれからも増やしていかなければならないことを痛感した。

一昨年(13年) こうべ森の学校は創設10周年を迎えることができた。その間にあってボランティア参加者はのべ12,000余名に及び、約28haの森の手入れがなされている。

それは六甲山全体のごくごく一部に過ぎない。が、その積み重ねが貴重であり、さらなる100年後への広がり的一步として評価したい。

こうべ森の学校でのボランティア活動の中でさまざまな分野での経験豊富な人々との巡り合いができ、優れた技や技術を学ぶ機会に恵まれたことは望外の喜びであり、新しいものの見方や考え方に接し自らの反省としたことも多くあった。又、活動の場が自然の懐にあって、四季を通じて心身の健康増進にとっても最適の環境に恵まれ、今日あることに感謝しなければならない。

シリーズ ボランティア活動 ㊟

災害ボラバスに参加して(茨城県常総市)

木下 英吉

台風 18 号による関東・東北豪雨で甚大な被害を受け、ボランティアの募集範囲を全国に広げ支援を求めている茨城県常総市へ、ひょうごボランタリープラザが実施したボランティアバスに 10～70 代の 20 名(男性 17・女性 3、初参加 3)が参加。休日は多くのボランティアが入るものの、平日は大幅な人手不足となる 10 月連休明けの 13・14 日の活動となりました。

今回も電話のみの参加受付には、開始から 15 分程で定員に達したとのこと。12 日の集合地では 3・4 年ぶりの顔も見え、変わらず被災地に思いを馳せていることに元気をいただきました。

○13 日(火) 常総市石下町三坂地区



朝 8 時頃、常総市災害ボランティアセンター(以下、ボラセン)がある常総市石下庁舎に到着。受付後、作業地

三坂地区 奥の白い部分が決壊箇所 の近況を確認し、鬼怒川が堤防を越水・決壊し、浸水した三坂地区にて 3 班に分かれ活動。災害から 1 ヶ月経った今も、決壊付近から半径 200～300m の範囲は立入禁止となっていて、流された家や車等が当時のままの状態、また、行方不明者の捜索も続いているとのこと。まるで、津波



三坂地区 側溝の泥出し

被害を受けた東日本大震災の東北沿岸部の状況と重なりました。決壊した土手部分には、コンクリートで応急の仮設堤防が作ら

れていました。

作業は、農道や民家の庭に流入した土砂の掻き出し、公民館の床下に入り込んだ泥を掻き出すための床板外しで、好天が続いていたことと川砂が堆積しているために、埃が舞い上がる中での作業となりました。溝蓋を外し、詰まった泥を掻き出し、元どおりに収める箇所もあり、久しぶりの作業なので指を挟まないよう、慎重に安全に作業を進めました。この日は、300 名のボラが入っ

たとのことでした。

○14 日(水) 常総市石下町玉地区

この日も 3 班に別れ活動です。民家の庭や側溝に入り込んだ泥や砂利の掻き出しで



玉地区サテライト受付

す。私達 5 名は、水路や周りの掃除、午後は、江連(エヅレ)用水(農業用で深さ・幅共 3 m 程)のフェンスに絡みついた枝やゴミの撤去等を行いました。

作業終了後、ボラセンでお借りした資機材を洗って返却、長靴の消毒や、埃舞う中での作業だったので、念入りに手洗い・うがいをしました。この日は、107 名のボラが入ったとのことでした。



フェンス付着物 作業前

常総市では、10 月 15 日現在、300 名を超える方が避難所での生



フェンス付着物 作業前

生活を余儀なくされています。今回のような泥の掻き出しの他、避難所での炊き出しや足湯ボラ、住宅から流され泥に埋もれた思い出の品などを探す活動等も続けられています。息の長い支援を続けたいものです。



10 月 31 日開催の「ことうべ森の文化祭」に向けてヤマアジサイ植樹地の事前掘削 11 カ所を行いました。さらに目印のくい打ちをして準備完了です。みなさんに植樹の体験をしていただけるようスタッフ一同努力しました。一人でも多くの方の来場をお待ちしています。



■前々回・前回の報告

日付	参加者	司会	午後・森の手入れ	木工工作	自然観察	苗づくり
8月16日(日)	54名	長塩 正之さん	17名	21名	6名	5名
9月12日(土)	54名	近藤 勝正さん	18名	17名	9名	—

■東お多福山再生プロジェクト



10月7日(水)東お多福山草原保全・再生研究会の活動が実施されました。この日は、「秋の植生調査」と「登山道沿い

の笹刈り」を行いました。7月の台風の影響で土樋割峠までの林道の一部が通行止めとなっており、重い装備を担いで、30分ほど歩くことになりました。

この日は快晴で風も心地よく、作業は順調に進みました。一時はネザサに占領されていた東お多福山ですが、ススキの群落が増えており、リンドウの花もあちこちに

見られるようになりました。みなさんの手入れの成果が出ています。

今後の活動予定
11月25日(水) 晩秋の全面刈り①
12月12日(土) 晩秋の全面刈り②

本年度の活動も、残り2回となりました。より多くの方のご協力をお待ちしています。参加を希望される方はスタッフまでお声がけください。



お知らせ・掲示板

♠バスの運行

こうべ森の学校月例会には神戸市バス25系統(三宮～森林植物園)をご利用ください。三宮の乗り場はミント神戸1階三宮バスターミナルM4停留所、9時20分発のバスに乗れば、例会に間に合います。

運行日は4月～11月の土日祝日のみで、平日の運行はありませんので、ご注意ください。

また阪急バス61系統(神戸駅南口～鈴蘭台)は通年運行しております。神戸駅南口バス停9時発のバスに乗り、水源池バス停で下車して徒歩25分で、こうべ森の学校「風楽山荘」に到着します。

平成26年度から再度公園駐車場が無料開放されています。こちらもご利用ください。

♠摩耶の森クラブ

♠こうべ森の小学校 & 森のようちえん

次回開催予定日については、神戸市森林整備事務所にお尋ねください。

♠ボランティア保険に加入していますか

森の手入れの作業中の事故に備えて「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済保険」への加入手続きをされていますか。掛け金は500円の負担で補償期間は4月1日から翌年3月31日までです。受付窓口はお住まいの市区町社会福祉協議会です。

会員活動の開催予定日

・月例会 11月14日(土)・12月20日(日)

午前中は全員で森の手入れを行います。午後は自然観察・木工・苗作り・森の手入れから選択をしていただきます。

・上記以外の火・木・土曜日にも活動しています。

「こうべ森の学校」は、発足当初から物心両面にわたり伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受けて運営されています。

編集後記

昨年の集中豪雨による土砂崩れで、紅葉谷や芦有道路が長らく通行止めになっていたのは、記憶に新しいです。

今年7月の台風11号も、六甲山のあちらこちらに爪痕を残していきました。異常気象に起因するものだと思われますが、マツクイやナラ枯れなどにより、六甲山の

樹木や表土が弱っているのではないかと危惧しています。

先人から受け継いだ美しい六甲山を次の世代に引き継いでいけるよう、また自分の街は自分で守るという機運が生まれることを願います。こうべ森の学校で学んだことを、六甲山をはじめ、各地で実践していただける人材を育成することが必要だと思います。(齊藤 豪)